

作||近松門左衛門
監修・補綴||木ノ下裕一
演出・作詞・音楽||糸井幸之介|FUKAIPRODUCE羽衣
音楽監修||manzo

出演||日高啓介、伊東薌那、伊東沙保
武谷公雄、西田夏奈子、澤田慎司、山内健司

美術||島次郎、角浜有香
照明||中山奈美
音響||小早川保隆
衣裳||大野知英
演出助手||岩澤哲野、山道弥栄
美術製作||俳優座劇場 舞台美術部 大橋哲雄
歌舞伎小道具||藤浪アートセンター
照明操作||吉津果美
運搬||植松ライン
舞台監督||大鹿展明、濱田真輝
制作||本郷麻衣

宣伝美術||外山 央
宣伝写真||浅野 豪
英語字幕翻訳||Christopher Gregory
英語字幕操作||堀 朝美

ロームシアター京都スタッフ
技術統括||滑川 武
舞台||石田昌也、山中春彦
照明||柴田順、中村良隆
音響||田村隆行、土肥昌史

制作||武田知也、河本あづみ
広報||長野夏織、松本花音
票券||加藤あかり
プログラム・ディレクター||橋本裕介
支配人||蔭山陽太

協力||FUKAIPRODUCE羽衣、レトル
エスアーティスト、ギフト、ブリッスマ
フォセツト・コンシェルジュ、青年団
iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA、libido:
中村未希、稲垣貴俊、関 亜弓
運営補佐(京都市ユースサービス協会連携事業
「未来のわたし」参加者)
足立康孝、今泉 洋、岡本文香、木本日向子
桑島優里、小糸智恵美、高畠伶奈、田中陽丞
中濱瑛未、西木沙知、柊木樹、藤崎沢美、藤田桃奈
堀江香那、丸木伸洋、八坂百恵、米田菜々花
企画製作||ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎

—
ロームシアター京都
舞台技術||滑川 武、山田比呂夫、田村隆行、
川村剛史、土肥昌史、西岡宣明、元木浩一、
大西貴士
管理||宮崎刀史紀、前田祐児、関本明子、
丸井重樹、工藤章英、寺田貴美子、安藤綾乃、
加藤あかり、中口マユミ、桜井春那、鹿野哲広、
久保田瞳、藤井敬史
制作||橋本裕介、小倉由佳子、長野夏織、
武田知也、河本あづみ、松本花音、西村明子、
那木萌美

アンケートのお願い

WEBフォームにアクセスしていただき、

アンケートにお答えください。 <https://goo.gl/gcLqho>



コピーにもアンケート用紙とBOXをご用意しています。今後の公演の参考にぜひご意見をお寄せください。

ロームシアター京都 2017年度自主事業

レパートリーの創造

木ノ下歌舞伎 心中天の網島

—2017リクリエーション版—

ROHM Theatre Kyoto Repertory Premiere
Kinoshita Kabuki
Shinju Ten no Amijima
(The Love Suicides at Amijima)

2017年10月5日[木]-9日[月・祝]

ロームシアター京都 ノースホール

主催||ロームシアター京都(公益財团法人京都市音楽芸術文化振興財團)、京都市

協力||キヨードーマネージメントシステムズ

平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

CAST

日高啓介||紙屋治兵衛
伊東茄那||紀の国屋小春
伊東沙保||おさん
武谷公雄||粉屋孫右衛門

西田夏奈子||治兵衛叔母(おさん母)、河庄女房
澤田慎司||丁稚三五郎、太兵衛相棒
山内健司||舅五左衛門、太兵衛

ごあいさつ

本日はロームシアター京都レパートリーの創造木ノ下歌舞伎「心中天の網島—2017リクリエーション版—」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

2016年1月にリニューアル・オープンしたロームシアター京都は、京都に新たな「劇場文化をつくる」ことを目標に、自ら企画・制作する自主事業を行っています。

「レパートリーの創造」はロームシアター京都が今年度より始めるプログラムで、時代を超えて末永く上演されるレパートリー作品を劇場から生みだすべく、アーティストと協働しロームシアター京都が主体的に舞台作品をプロデュースする事業です。その第一弾として、京都を拠点に歌舞伎演目の可能性を検証・発信する木ノ下歌舞伎とタッグを組み、近松門左衛門の最高傑作と評される「心中天の網島」を2017リクリエーション版としてご覧に入れます。激しく炎上する男女の愛、市井の人々のエネルギー、そして社会のリアルを浮かび上らせる傑作音楽劇を、どうぞ存分にお楽しみください。

最後に、本公演の実現に向けてご協力、ご尽力いただきました、関係各位に感謝の言葉を申し上げて、ご挨拶いたします。

ロームシアター京都

あらすじ

大阪天満の紙屋主人・治兵衛は、妻子ある身ながら、遊女・小春と深く馴染み、ひそかに心中の約束をしていた。しかしある日、治兵衛は、小春が「死にたくない」と告白するのを耳にする。治兵衛は激怒して小春に別れを言い渡すが、実は小春は治兵衛の女房・おさんに頼まれてわざと愛想づかしをしていたのだった。その事実を知った治兵衛は、小春がひとり死ぬつもりであることを悟る。治兵衛とおさんは小春を殺すまいとするが、おさんの実父・五左衛門が現れ、おさんは実家へ連れ戻されてしまった。その夜、治兵衛は小春を連れ出し、死への道行を歩み始める……。

